



在京磐高同窓会からいわき市への提言書

# 『いわきの未来を共に考える』 --- SDGs・ESG時代に行く都市モデルの考察



2026年2月  
在京磐高同窓会

## 【目次】

|    |                                |      |
|----|--------------------------------|------|
| 1. | はじめに　――　在京磐高同窓会活動のご紹介          | P.3  |
| 2. | 本提言書の作成経緯                      | P.5  |
| 3. | 日本の社会課題と、都市衰退の背景               | P.9  |
| 4. | 〔参考〕世界情勢概観、世界の社会課題と日本への影響      | P.11 |
| 5. | いわき市の現状認識                      | P.14 |
| 6. | いわき市の課題認識                      | P.18 |
| 7. | いわき市への提言                       |      |
|    | (1)まずはビジョンの策定、明示から(市民の啓発から共感へ) | P.19 |
|    | (2)アクションプラン(案)                 | P.20 |
|    | (3)住民理解と協力を得るために               | P.25 |
| 8. | 《資料編》                          | P.27 |

## 1. はじめに ―― 在京磐高同窓会活動のご紹介

表題につきまして、この度内田市長をはじめ、地元各界のリーダーの方々との面談の機会をいただき、誠にありがとうございます。冒頭、簡単に、在京磐高同窓会を紹介いたします。

本同窓会は、1960年頃いわき本校同窓会の東京支部として発足し、首都圏在住のOB・OGの親睦の場として70年近い歴史を持ち、会員数も、のべ5,000人を超えるまでに至りました。わたしたちは、以下のようなビジョンとミッションを掲げ活動しております。

### 《わたしたち同窓会のビジョン》 目指す未来の姿

- 母校に関わる全ての人々の、よりよい人生と発展に貢献するコミュニティを目指す
- 同窓生として集い、交流することで知識を高め合い、よりよい人生を送ること、また、母校をはじめ地元いわき市、福島県の発展に貢献する活動のハブとなるコミュニティを目指す

### 《在京同窓会のミッション》 ビジョンを実現するために実施すること

- 会員相互の親睦の深化に資する活動推進
- 母校発展への貢献(学力向上や部活動実績向上、進路やひいてはその後の人生設計において、幅広い選択肢を持って高校生活を送ってもらえる様、各種支援を実施)
- 地元いわき市、福島県の活性化に資する活動推進

### 《在京同窓会が創るバリュー》

- 幅広い世代のOB・OG、現役生を繋ぎ、様々な価値観の交わるクリエイティブな場を創る事

## 【活動状況】

主な活動として、総会・懇親会(例年9月実施)、会員や磐高在校生向けセミナー、若手・学生会員との交流会や、親睦ゴルフなど多岐に渡ります。

また、磐城高校、本校同窓会とも交流があり、会員構成も19歳から100歳までに及び、世代を超えたネットワーキングの場として役割を担っております。

(詳細は本同窓会 HP ご参照: <https://iwako-zaikyo.com/>)



(上: 総会での鈴木会長挨拶)

(上中: 野球部へのボール寄贈)

(上右: 在校生進路セミナー)

(右: 総会集合写真)



**【セミナーの実施状況と、先般実施したセミナー座談会について】**

近年は時事問題を取扱ったセミナー、磐高在校生に向けた進路講演会にも注力しており、政財官で活躍するOB・OG講師や、著名な外部講師の貴重な体験談や人生訓に触れつつ、直接対話の場として、また会員同士の親睦の場としても、大変好評を博しております。

昨年11月には、本同窓会が世話人となり、『**いわきの未来を共に考える**』と題したセミナー座談会を実施し、参加者からの意見をいわき市への提言書としてまとめさせていただきました。

市の関係各位、各分野で活躍される方々においては、市民の暮らしの向上、まちの発展と復興のために日々尽力されていることと拝察いたします。この提言書が、今後の市政と地元の官民の活動に少しでも参考になれば幸いです。

どうぞ今後とも、在京磐高同窓会を宜しくお願い致します。

在京磐高同窓会 会長 鈴木 正晃(磐高18回(1966年)卒)

## 2. 本提言書の作成経緯

### 《高度成長期からバブル迄の日本の振り返り》

日本が高度成長期に謳歌したものづくり大国としての成功体験、つまり、原材料や資源を大量に輸入して質の良い加工品を世界に売り出して作り上げた日本ブランドは、大いなる富を生み出しました。

しかしながら、景気減速と貿易赤字に喘ぐアメリカが主導で1985年のプラザ合意がなされ、急激な円高誘導により、輸出産業が不振となり日本の景気が一時急減速しました。一方で、円高の恩恵で海外のものが急に安くなり、国内の金利引下げ施策もあり、金を借りてでも株や不動産に投資する狂乱のバブル経済が1988～89年にピークを迎えます。

その後、大規模な不動産規制などのバブル抑制策から土地の値段が下がり、資産価値の下落を生み、市場への不信感や不安から、外国人を含む投資家が金を引き上げ始め、株式は1990年末の大暴落を引き起こして、あっけなくバブルは崩壊しました。

### 《バブル後の長期デフレと共に顕在化した社会課題》—— 人口減少と人手不足

バブル後の時代を失われた30年と言いますが、これほど長くデフレ不況が続くと思っていた方はほとんど皆無と思います。その間、銀行や大手証券の破綻、阪神淡路、中越、東日本、熊本、能登と大震災が何度も列島を遅い、一方長野五輪、東京五輪などの国を挙げてのイベントも思い出されます。この30余年の間にGDPは世界2位から4位に後退していて、早晚インドにも抜かれて5位になる見込みです。

高度成長期に、顕著な農業軽視政策を取り、食糧も資源も輸入に頼り切りで、先進国としては最低水準の自給率である点、ご存じの通りです。

高齢化が進むにつれて、社会保障への不安が増大、また、長引く不況で平均賃金も過去30年、物価上昇比では実質減少、若者は相対的に稼ぎが少なく共働きが当たり前、共働きを支える社会インフラも遅れていることから少子化に歯止めがかからなくなりました。

日本の人口は、2009年をピークに減少局面に入り、その勢いは、特に地方圏において加速するばかりです。

働き盛り世代が減る一方、仕事によって人手が偏在し、いわゆるエッセンシャルワーカーの人手不足は深刻な状況が続いています。

一方、新幹線や高速道路、地方空港も大いに増え、どの地方からも都会が近くなりましたが、皮肉にも交通網の発達とともに地方から都会へ人やお金が全部流れてしまう結果を招きました。

### 《今の社会課題と未来の社会のあり方》—— 来るべき『Society 5.0』(超スマート社会)

昨今の世界情勢は正にVUCAの世の中、大国のむき出しのエゴや日中関係悪化などによる地政学的リスクの高まりが、食糧やエネルギー資源自給率が低く、輸入依存の日本の経済や国民生活の安定には大きな影響をもたらす現実を突きつけています。

気候変動による自然災害の増加、生態系への影響、貪欲な国家間の資源争い、環境問題や、貧困や格差、地域紛争など、世界中に多くの社会課題が山積しています。もはや国や民族やイデオロギーなどの違いを越えて、自分事として解決を目指さなければ地球はやがて滅びるという危機感から『SDGs』『ESG』の構想が生まれたはずなのですが。

そのような社会課題に向き合う21世紀型のライフスタイル哲学を地球規模で考えて行こう、それ

が SDGs や ESG の精神の根底にあると信じたいところ、まだまだ大きなうねりを起こすグローバルコンセンサスには程遠く、ともすると、大国のエゴに踏みつぶされてしまうのではとの危機感を覚えます。

一方で、社会を支える主要産業の潮流は、時価総額ランキングで見ると、かつての金余り、モノづくり全盛時代に製造業や金融が上位を占めていた 90 年代から様変わりし、デジタル技術をビジネス、生活に浸透させる GAFAM 全盛の様相を呈しています。

AI の進化がデジタルトランスフォーメーションを加速させ、今後 10 年、20 年の間に、私たちの仕事、ライフスタイルに未曾有の変革が起きることには疑問の余地もないと思われれます。

また、上述の様な地球温暖化と CO<sub>2</sub>排出削減、資源争いや環境問題などのグローバルな社会課題や、増大する地政学リスクが、日本のような食糧・エネルギー源をはじめ輸入依存の国に及ぼす影響をも勘案すれば、いよいよ私たちの社会も『Society 5.0』(超スマート社会)の実現に向かうべきではと考えさせられます。

### 《〔仮説〕 超スマート社会のイメージ》

超スマート社会(Society 5.0)をイメージすると、例えば、フードロス対策&ごみ削減も包含する無駄のない低消費社会実現、高齢化や人手不足、災対と言った課題を支えるテック産業振興、代替エネルギーへの漸次転換、更には食糧自給率アップ農業振興とサプライチェーン開発などの課題が挙げられます。また超スマート社会のライフスタイルへの転換、支える人材確保も必須となり、いままでとは次元の違う教育啓蒙活動もデザインし実践していく事が求められるでしょう。

#### ➤ 足許の生活スタイルは？ — “21 世紀版カウチポテト”

ところで、昨今の人々の生活スタイルを覗くと、eコマースの恩恵で何でも宅配で済まし、出かけない、人と交わらない、また、生ごみ、紙ごみ、ペットボトル、瓶、レジ袋と何の躊躇もなく週二回捨て続ける構図もうかがえます。いわば、“21 世紀版カウチポテト”(ソファでくつろぎ Netflix で映画かスマホとにらめっこ、外出せず何でも宅配で手に入れながら過ごすライフスタイル)と言いましょか。地方では一人一台車を持って、平日は勤務先と自宅、週末は郊外のモールかレジャー施設と自宅の往復で一日を過ごし、ほとんど街歩きはしない車社会です。結果としてまちなかの空洞化が加速度的に進み、かつての街の活気は完全に失われました、残念です。

#### ➤ 超スマート社会への進化で街を活性化するモデルを — 大胆な模索から！

欲張りな発想ですが、グローバルな社会課題、日本の社会課題に向き合いながら、人々が生き生きと暮らす街の魅力も取り戻せたら良いですね。

まずは、スマートライフが社会課題を解決していくシナリオを考え、ロードマップに落とす戦略的プランニングからですが、既に多くの自治体で検討はされてきたことと思います。しかしながら、具体的ロードマップを擁し住民理解と協力を得ながらアクションに移している町はまだ希少であると理解します。

ご存じの通り、日本の人口は 2050 年ごろまでに 1 億人を割ると言われて久しく、昨今は“スマートシュリンク”(人口減少を前提として、地域の構造や公共サービスのあり方を改善し、生活の質を維持・向上させながら、公共サービスを集約化・効率化する考え方)というキーワードをよく耳にします。人口減少を無条件に仕方ないと諦めてはいないと思いますが、少なくとも人口を維持する、最低でも減少を抑制できる地域の社会構造を作っていかなければ、地域の街は衰退を止め

られないだろうと危惧します。変える気概がなければ、何もしなければ地盤沈下は止められないでしょう。

そのためにも、意識の高い自治体には、例えば、核となる産業の開発・支援、移住者へのインセンティブ、種々の子育て支援策、人が集う街の開発と、そのための域内交通動線整備など、一時的ではない各種施策をいかに実践していくか、大いに期待したいところです。

まずやってみる、やりながら走りながら改善して、おらがまちのスマート社会を作っていくマインドを官民に醸成しつつ、プロジェクトを力強く進める、大変難しいかじ取りであり地域の首長には多大なプレッシャーがかかると思いますが、退路を断つ位のリーダーシップが期待されます。

### 《ふるさといわきを思う》—— Society 5.0 実現で SDGs・ESG 時代の先駆者を目指そう！

#### ➤ 55年体制がいまだに続く中央の政治体制 —— 地方衰退

お世辞にも日本の地方都市に元気があるとは言えません。中央政府に、地域の再活性化において明確なビジョンはなく、国のビジョンがあいまいなところ、自治体も明確なビジョンを打ち出しにくいのは致し方ないかもしれません。10年、20年、50年先を見据えた政策論争が政局にも選挙にも現れない、異常に近視眼的社会に成り下がってしまいました。

#### ➤ いわきの舵取りの難しさ

ふるさといわきに暮らした感想は、合併市ならではの地域感情もあり、なかなか一枚岩にまとまらない風土であるというものでした。今も根本的には変わっていないとすれば、官民一体となって次世代につなぐ街をプロデュースするのは他の自治体以上のハードルがあるものと想像されます。とは言え、いわき駅に降り立つ度に感じる活気の無さは、遠く首都圏に暮らすわたしたち在京同窓会員にとって、いつも気がかりでなりません。

いわき、浜通りは、既述の社会課題に加えて、脱原発後の街づくりを含む震災からの復興も重くのしかかり、一層舵取りが難しいのではと考えます。

こうした背景から、本同窓会では、会員とともにいわきの未来を考える機会を持ちたいと昨秋の総会で問題提起し、11月に同窓会幹事と会員とのセミナー座談会を持つに至りました。

#### ➤ でもいわきのポテンシャルはすごい！

前述の通り、近年人口減少に歯止めがかからず、いわき駅前の空洞化には心が痛みます。一方、気候が温暖で一年中ゴルフが楽しめ、海も山も河もあり、広い土地にも恵まれた魅力満載のサンシャインシティいわきが、それら資源をどう活かしながら、Society 5.0 社会の枠組みを応用して未来の街を作っていけるだろうか、考えを巡らすだけでもワクワクします。

不安だらけの日本の将来像に一筋の光を差す、新しい都市のモデルを先駆できるはず、と身内びいきを差し引いてもそう思えてなりません。

超スマート社会のど真ん中で本当の豊かな暮らしを実現する、そんなモデルをいわきで実現、また、土地柄、再エネ、代替エネルギーの実証実験も、卒・脱原発を考える取組として期待したくなります。

#### ◇ 25年11月18日に座談会開催

SDGs というキーワードを10年前に初めて耳にした時、大変新鮮で、漸く世界が共存共栄を目指し、その中で、様々な社会課題を協働して解決して行こうといった気概も感じたことを記憶します。

ところがいま、世界の大国は過剰なまでの自国ファーストを掲げ、力での現状変更も辞さないエゴを臆面もなく披露していることから、地球環境、資源保護、格差是正、平和と共存共栄と言った社会課題は置き去りにされるのではと危惧します。

しかしながら、いかに大国が反対しても、SDGsの枠組みで掲げた上記の社会課題をないものにすることは社会秩序上決して許されません。

座談会では、遠くいつかは世界がグローバル社会課題に本気で向き合うようになり、遅きに失する前に国々がコラボして解決策を講じて新しい社会秩序の形成に動き出すことを〔仮説〕として信じながら、国、地域、そしていわきの社会課題を振り返りつつ、復興のシンボルとして SDGs・ESG 時代を先駆するいわきのあり方を参加者と意見を交わしました。また、髻城高校が地元のために、またグローバルに活躍する人材を輩出し続けるべく期待されることについても、活発な議論が展開され有意義な座談会となりました。

本同窓会副会長の星野が世話人としてファシリテーターを務め、主な発言や思い、考えの骨子を提言書としてまとめさせていただきました。

少しでも今後の市政運営のヒントになれば幸いです。

セミナー座談会 世話人  
在京髻高同窓会 副会長  
星野 一路(髻高 36 回(1984 年)卒)

### 3. 日本の社会課題と、都市衰退の背景

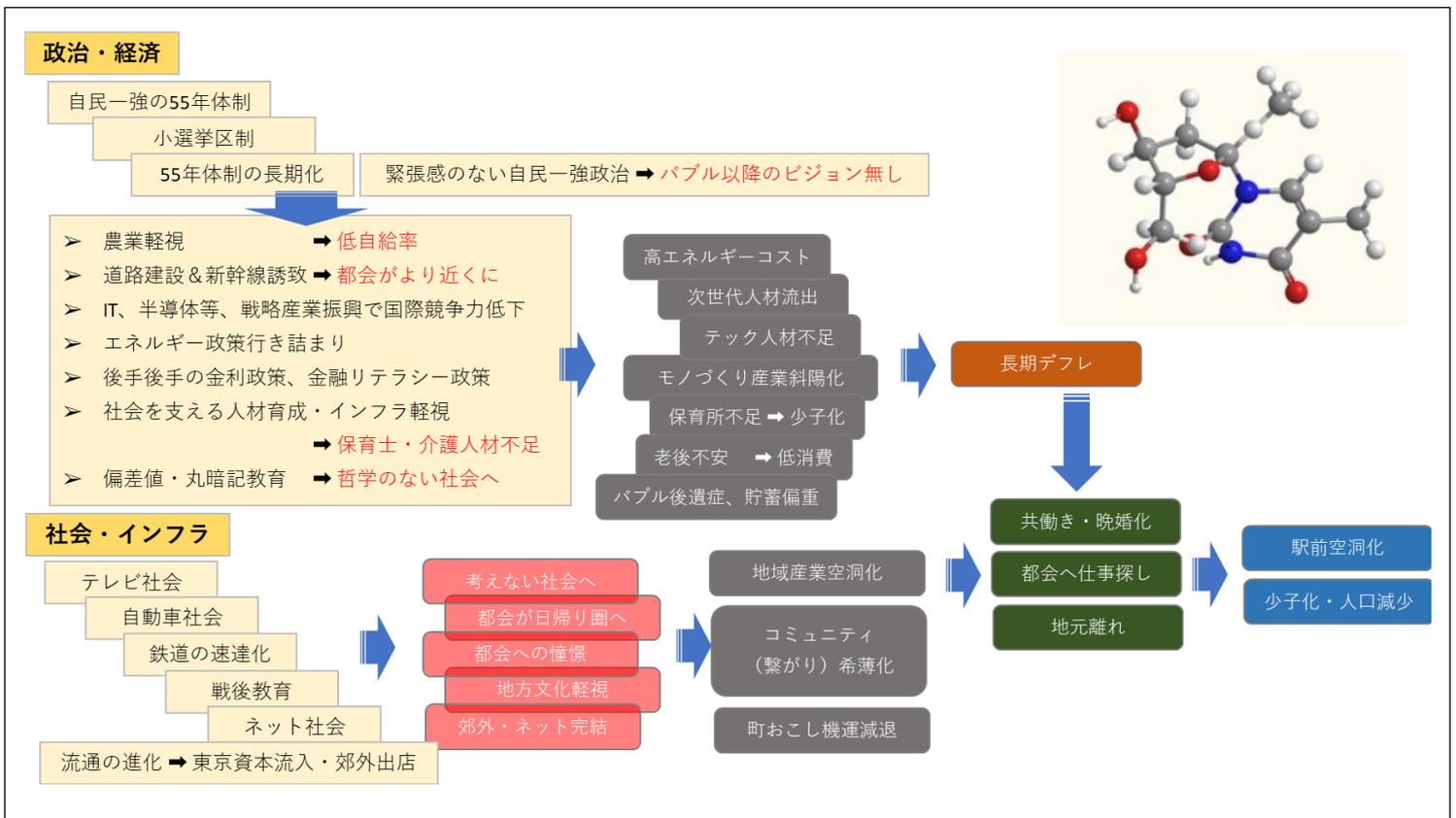
バブル後の日本社会は、気の抜けたコーラのようにであったと今更ながら回顧されます。

モノづくりで新興国に追いつかれ、デジタル社会への移行に呼応する基幹産業の構造調整が一周遅れ、方々、食糧自給やエネルギー確保においても、輸入依存度を下げ、地政学リスクに左右されない自由度確保には程遠い現状です。

下図のように、『長期デフレ』が共働きや晩婚化につながり、地方は産業が衰退し若者は都会を目指す動きがより顕著に現れました。言い換えれば、出生率が低下する一方、若い世代は都会を目指し、地元は高齢化の一途、これでは人口は増えません。また、モータリゼーションが成熟すると、人々は郊外に流れ、駅前が益々空洞化した(次葉参照)と解釈できるでしょう。

政治・経済・社会の様々な矛盾が複雑に絡み合い、今日の地方衰退(地元離れ、駅前空洞化など)に繋がっているのではないのでしょうか？

**【仮説】バブル後の低成長時代の国の経営ビジョンの欠如が、ひいては危機感の薄い自治体経営をも招き、現代の社会課題に有効策を打てないまま、地方が益々衰退していった**



現状をもたらした元凶を辿る As-Is 分析を、本同窓会では、骨太に整理しました。55年体制にメスを入れずに来た政治家、国民の危機意識の低さが主原因との仮説を立てています。

【(地方)都市に暮らす人々の行動動線における理想と現実】

〔現実〕

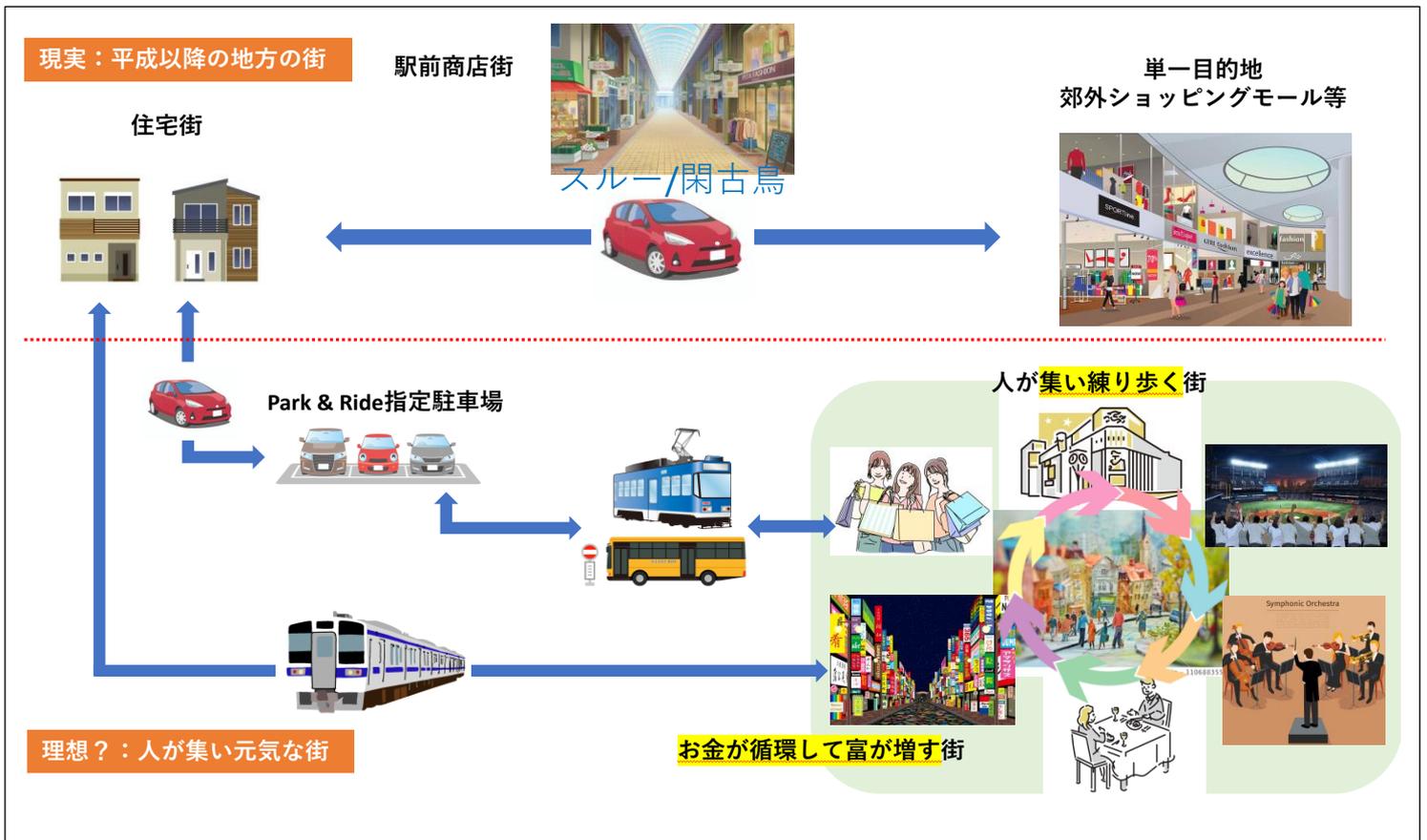
誰もが認めている通り、現実には、この50年、モータリゼーションの発達とともに、車で点と点を結ぶ移動が街中の空洞化を助長し、地方都市は軒並みさびれました。

〔理想〕

街に人が集い話し交わる、また憩う。また練り歩き、適度にお金を使う。こういった文化が育つことが都市としての魅力のバロメータになるものと思料します。

住むのが楽しい街には投資が増える → そこには建物が建つ、施設ができる、イベントが増える → 益々楽しい街になる → そして更に人が集まるもの。

コンサートや野球、サッカー観戦にショッピングと、適度に同地域に集中していて、公共交通と足で練り歩きできると、街中の滞在時間も延びて、(運転しないので、)お酒も飲んで金も使います。

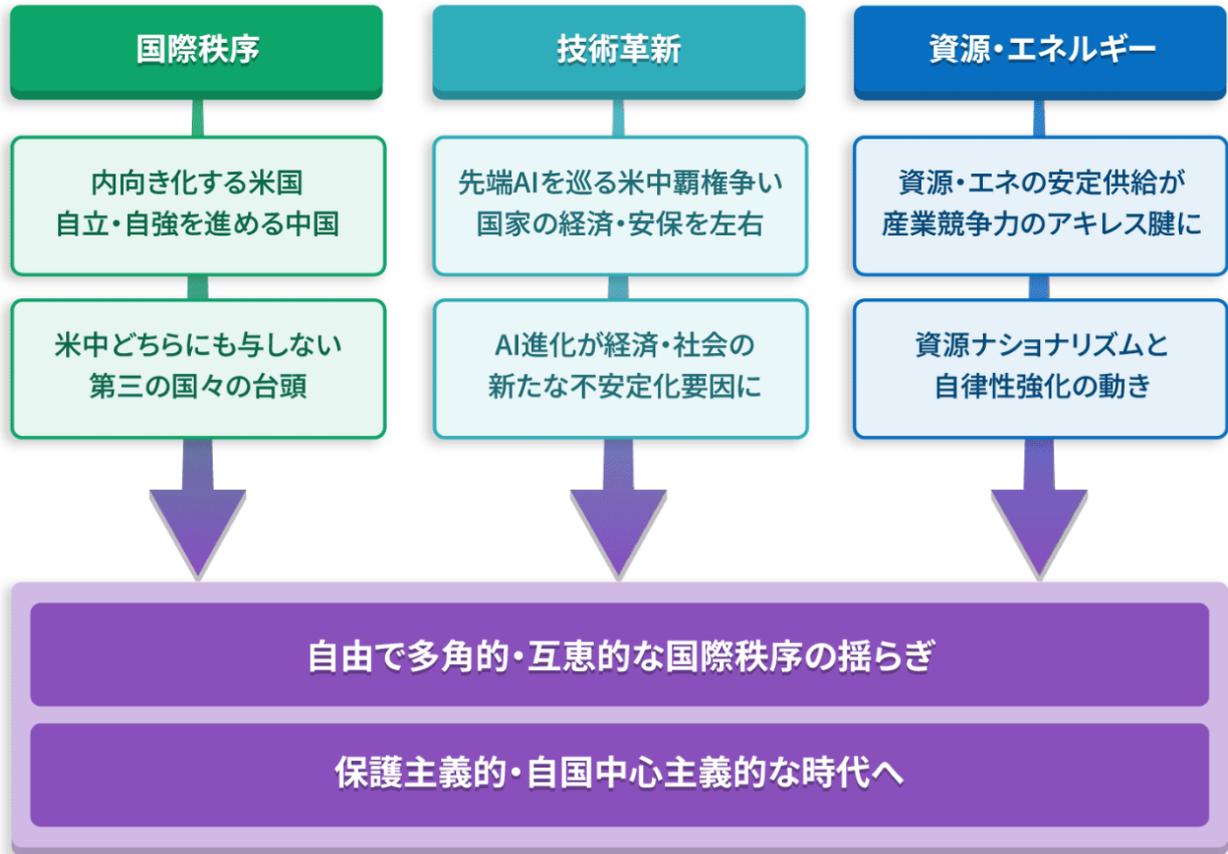


《座談会コメント》

残念ながら、いわきを含め、日本の大部分の地方都市では上記の現実に直面しています。下段の理想形は、地方にとって実現可能なモデルでしょうか？ドイツなど欧州の都市の多くでは、まさにこのモデルを採用し、活気ある街づくりに成功しています((例)(仏)ストラスブール市)。

#### 4. [参考] 世界情勢概観、世界の社会課題と日本への影響

##### 【世界の地殻変動】



(三菱総合研究所 ナレッジコラム;「転換期を迎える世界情勢、「強い経済」を目指す日本に何が必要か」より引用)

##### 【国際秩序の揺らぎ】

第2次世界大戦後の国際秩序形成を覇権国として主導してきた米国だが、その地位は揺らいでいる。中国をはじめ新興国の台頭により米国1強の構図が崩れつつあるほか、米国内製造業が衰退、不法移民が増加する中、国境を開くメリットを米国民が実感しにくくなっている。そうした国民の不満を背景に誕生したトランプ政権は、保護主義・自国中心主義を前面に出す政策を展開している。このような既存の国際秩序を自ら否定する動きに対して、世界各国の米国への信頼低下や米国離れの兆しも見られる。現覇権国の国際公共財(貿易体制、金融の安定、基軸通貨の信認など)を提供する意思が低下する中、次の覇権国がそれを引き継がず、「キンドルバーガーの罠」と呼ばれる状態に陥った場合、国際秩序は不安定化しやすい。現在はそうした状況に近づいているのではないだろうか。

##### 【技術革新】

AI技術の飛躍的な進化により、労働力による経済成長の制約が大幅に緩和される可能性が出てきた。人口減少局面に突入する中国、不法移民を抑制したい米国にとってもAIは有効な手段となり得る。各国が先端技術開発に取り組んでいるが、資本力がものを言う世界であり、ここでも

米中 2 強の構図ができている。現状は高性能半導体の対中輸出規制などにより、米国企業がリードしているが、中国企業もキャッチアップを続ける。加えて、技術開発とともに AI の社会実装も世界各国で進みつつある。生産性上昇が期待される一方で、タスク代替による失業の増加や偽情報の拡散など新たな社会不安化要因となるリスクも顕在化しつつある。

### 【資源・エネルギー問題】

資源・エネルギーを巡る争奪戦が激化している。今後、AI の開発や利用を制約する要素として挙げられているのが電力制約だ。国際エネルギー機関(IEA)によると、世界のデータセンターの電力消費は 2030 年に 2024 年時点の 2 倍強となり、日本全体の年間電力消費に匹敵する水準となる。中国は電力供給余力が大きいとされるが、米国は電力インフラの整備が喫緊の課題となっており、2025 年 10 月の日米貿易合意でも米国の電力インフラへの投資が主軸の 1 つに据えられた。また、半導体や電気自動車の製造に不可欠な資源についても、経済安全保障の観点から注目度が高まっている。資源保有国では輸出規制による資源の「武器化」が進み、資源利用国では安定調達先の確保や代替材料の開発など自律性強化の動きが強まっている。「お金を出しさえすれば資源・エネルギーを調達できる」時代は、もはや過去のものとなりつつある。

これら 3 つの地殻変動に対応して、各国は外交関係の見直しや産業の競争力・自律性の強化に動いている。

(三菱総合研究所 ナレッジコラム;「転換期を迎える世界情勢、「強い経済」を目指す日本に何が必要か」より引用)

### 《座談会コメント》

上記引用の通り、コロナ後、世界は未曾有の地政学リスクに晒されています。

大国の自国ファーストのエゴに席卷され、食糧、資源・エネルギーの確保が日本にとっては、喫緊の課題になってしまいました。

一方、AI が人の仕事をどんどん代替するデジタル社会も日進月歩で進化していて、それに伴い、産業構造にも大きな変化(製造業からテック産業中心の構造へ)が起きています。

AI 全盛時代においては、あらゆる業種、仕事において、生産性がより重要視され、AI では代替できない人手の価値を探していくこととなりますが、失業が増えていたずらに社会不安が煽られないことを願うばかりです。

国も、都市も、企業も、自律的に成長するモデルを確立し、時代を先取りして変革していくことが、唯一の「リーダーの資格要件」になっていく感すら覚えます。

(次ページでは、)世界の社会課題の多くが日本でも大きな課題としてオーバーラップしている事が窺えます。

日本発、いわき発で社会課題の解決のモデルが示され、自律的にアクションを起こすことで、地域のコミュニティが潤う(=資本が投下され、地の利と地域文化をベースに産業が発展し、人口が増加する)好循環を伴って行くことが期待されます。

いかに大国がエゴを振りかざしても、最終的には、共通課題を中心に各国が協力し合って地球の未来を担っていく正義が勝つものと考えます。

## 【世界の社会課題と日本との関連・影響】

|                        | 日本の課題<br>との関連・影響 | 課題のプロファイル  |
|------------------------|------------------|--|
| 1. 貧困問題                | ○                | 1日1.90ドル未満で生活をする人(世界銀行)、推計3.6億人の子供が該当  |
| 2. 飢餓                  |                  | 新型コロナウイルス感染症の流行やウクライナなど各地での紛争の影響で、飢餓人口は、2023年時点で約7億3,500万人に  |
| 3. 紛争                  | ○                | 世界中には現在100を超える武力紛争あり   |
| 4. 人身売買                | △                | 世界中で4,030万人の人身売買の被害者がいると推定。日本にも事例あり  |
| 5. 児童労働                |                  | 2020年時点で、世界中で1億6,000万人の子ども(10%)が児童労働の疑い  |
| 6. 人口爆発                | △                | 世界の人口は80億4500万人と言われており、約100年で5倍にも増え、2055年には100億人を超えると予想  |
| 7. 難民問題                | △                | UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)によると、2022年末時点で、紛争や迫害により故郷を追われた人の総数は1億840万人  |
| 8. 教育格差                |                  | 識字率が著しく低い、又は、女子への教育に否定的な国や地域あり   |
| 9. 健康・衛生問題<br>水問題      |                  | トイレが完備されていない地域における健康問題(肺炎など)が少なからず存在<br>水道がなく、不衛生な水を飲むことで病気にかかるケースも少なからず存在   |
| 10. 気候変動               | ◎                | 気候変動によって、世界では「気温の上昇」、「海水温の上昇」、「北極海の海水減少」などが問題視。気候変動による二酸化炭素の増加は、産業革命前後を比較すると、革命後は「40%」も増加                              |
| 11. 自然災害               | ◎                | 日本でも問題視されている問題、地震や津波や森林災害など。気候変動による影響も顕著   |
| 12. 環境問題               |                  |  |
| (1) エネルギー問題            | ◎                | 経済成長と人口増加から今後化石燃料が不足していくことが懸念される   |
| (2) ゴミ問題               | ◎                | 世界中で大量生産・大量消費の時代、エネルギー問題や環境問題などが深刻になっていることもあり、リサイクルやリユースへの取り組みが加速化   |
| (3) プラスチック問題           | ◎                | 世界では年間800万トンのプラスチックごみが世界中の海に流れ込み、環境破壊や海洋生物への影響が問題視されている  |
| (4) その他の環境問題           |                  |  |
| ① 内、外務省が定義する主要環境問題(抜粋) |                  |  |
| a) 海洋環境保全              | ◎                | プラスチックごみの海洋投棄問題や、過剰な漁業・密漁、家庭や工場などからの化学物質の排出など。特に、海洋プラスチックゴミの量は、合計1億5,000万トン以上で年間約800万トンが新たに流出していると推定                   |
| b) 化学物質・有害廃棄物の越境移動     | ◎                | バーゼル条約などの国際協定での、規制、安全な廃棄物処理など促進中   |
| c) オゾン層の保護             | ○                | 地球規模のオゾン層は、1980年代から1990年代前半にかけて大きく減少。モントリオール議定書やオゾン層保護法など様々な条約・法律によって世界各国で対策実施。現在は減少傾向が鈍化しているものの、依然オゾン層は薄い状態           |
| ② その他(一部抜粋)            |                  |  |
| a) バーチャルウォーター(注1)      | ◎                | 牛1頭分のバーチャルウォーターは約12,000トン、牛の飼料となるトウモロコシは、1kgあたり1,800リットルの水が必要で、牛はこれを大量に消費。こう考えると、大量消費国の日本などは、環境や資源への影響をも考慮した食料政策が求められる |
| b) フードマイレージ(注2)        | ◎                |  |
| c) ウォーターフットプリント(注3)    | ◎                |  |
| d) フードロス               | ◎                | 日本国内のフードロスは深刻な状況。令和4年6月発表の農林水産省の「食品ロス及びリサイクルをめぐる情勢」によると、事業系のフードロスは275万トン、家庭系フードロスは247万トンという驚異的な数値                      |
| 13. ジェンダー問題            | ○                | ジェンダーバイアス、スポーツとジェンダー、LGBTQなど、問題も多様化  |

(注1)バーチャルウォーター : 輸入食糧生産に必要な推定水量

(注2)フードマイレージ : 輸入食糧の総重量と輸送距離を合わせて数値化したもの

(注3)ウォーターフットプリント : ある商品のライフサイクルで消費された水の量(生産?廃棄?リサイクル迄)

(COCOCOLOR EARTH 社会問題コラムより引用した内容を編集)

## 5. いわき市の現状認識 ―― まずは現状把握

## いわき市 市勢概要

いわき市は、福島県の東南端、茨城県と境を接する、広大な面積を持つまちで、東は太平洋に面しているため、寒暖の差が比較的少なく、温暖な気候に恵まれた地域。

地形は、西方の阿武隈高地(標高500から700メートル)から東方へゆるやかに低くなり、平坦地を形成し、夏井川や鮫川を中心とした河川が市域を貫流し、太平洋に注いでいる。

人口 : 314,731人 (令和7年5月1日現在)

世帯 : 141,570世帯 (令和7年5月1日現在)

面積 : 1,232.51km<sup>2</sup> (令和6年4月1日現在)

位置 : 北緯37度03分02秒、東経140度53分16秒 (令和2年4月1日現在)

出所: いわき市HPより引用

(単位: 世帯、人)

| 年               | 世帯数     | 人 口            |         |         | 人口密度<br>(人/km <sup>2</sup> ) | 1世帯当<br>たり人員 |
|-----------------|---------|----------------|---------|---------|------------------------------|--------------|
|                 |         | 計              | 男       | 女       |                              |              |
| 10 (1998)       | 122,508 | 361,934        | 176,605 | 185,329 | 294                          | 2.95         |
| 11 (1999)       | 123,628 | 361,336        | 176,259 | 185,077 | 293                          | 2.92         |
| 12 (2000)       | 123,864 | 360,138        | 175,679 | 184,459 | 293                          | 2.91         |
| 令和元年(2019)      | 143,699 | 340,205        | 168,281 | 171,924 | 276                          | 2.37         |
| 2 (2020)        | 141,411 | 332,931        | 163,525 | 169,406 | 270                          | 2.35         |
| 3 (2021)        | 141,585 | 329,469        | 161,752 | 167,717 | 267                          | 2.33         |
| 4 (2022)        | 141,621 | 325,730        | 159,917 | 165,813 | 264                          | 2.30         |
| 5 (2023)        | 141,460 | 321,479        | 157,755 | 163,724 | 261                          | 2.27         |
| <b>6 (2024)</b> | 141,682 | <b>317,814</b> | 155,919 | 161,895 | 258                          | 2.24         |

資料: 政策企画課

市の人口は、1998年をピークに減少に転じ、減少の一途。

市では、2030年には30万人を割り、2060年には20万人レベル迄減少することを想定し、今後の市の在り方を検討するとの姿勢。

## いわき市の気候風土

いわき市小名浜

| 要素   | 気温            |               |               | 降水量           | 相対湿度          | 日照時間          |
|------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
|      | 平均<br>(℃)     | 日最高<br>(℃)    | 日最低<br>(℃)    | 合計<br>(mm)    | 平均<br>(%)     | 合計<br>(時)     |
| 統計期間 | 1991～<br>2020 | 1991～<br>2020 | 1991～<br>2020 | 1991～<br>2020 | 1991～<br>2020 | 1991～<br>2020 |
| 1月   | 4.1           | 8.6           | -0.1          | 57.3          | 58            | 193.4         |
| 2月   | 4.3           | 8.9           | 0.1           | 54            | 59            | 180.3         |
| 3月   | 7.1           | 11.5          | 2.8           | 108.4         | 62            | 191.4         |
| 4月   | 11.6          | 15.8          | 7.4           | 125.2         | 68            | 192.8         |
| 5月   | 15.8          | 19.6          | 12.3          | 146.1         | 76            | 193           |
| 6月   | 19.1          | 22.6          | 16.4          | 149.5         | 83            | 150.3         |
| 7月   | 22.5          | 25.8          | 20.1          | 160.7         | 86            | 151.1         |
| 8月   | 24.5          | 27.9          | 22            | 122.6         | 84            | 183.1         |
| 9月   | 22            | 25.4          | 19            | 192.3         | 80            | 144.5         |
| 10月  | 16.9          | 20.9          | 13.2          | 193.1         | 75            | 147.3         |
| 11月  | 11.5          | 16.1          | 7.1           | 80.3          | 69            | 162.4         |
| 12月  | 6.6           | 11.1          | 2.1           | 51.3          | 62            | 179           |
| 年    | 13.8          | 17.9          | 10.2          | 1440.7        | 72            | 2068.6        |

(気象庁統計)

| 2022年  | 平均気温 | 降水量   | 日照時間  |
|--------|------|-------|-------|
| 都道府県平均 | 16.1 | 1,550 | 2,047 |

| 91年～20年平均 | 平均気温 | 降水量   | 日照時間  |
|-----------|------|-------|-------|
| いわき小名浜    | 13.8 | 1,441 | 2,069 |

全国平均と比較して、  
年間を通して、暑すぎず、寒すぎず、  
雨は少な目、雪はほとんど降らず。  
日照時間も平均以上、もちろん東北 No.1  
温暖で、フラシティの名に相応しいまち！

## 《資料編》統計から読み取れること

### 【いま何が起きている？】

- ✓ 幾何級数的人口減少
- ✓ 典型的多死社会
- ✓ 年々鉄道利用者が減少。益々モータリゼーション
- ✓ 人口10万人当たりの医師数は全国平均233.6人に対し、いわき市は172.1人と大幅に劣勢(2023年)  
一方、介護職員数は、全国平均67.19人(75歳以上千人に対し)に対し64.13人とやや少ない(2020年)  
--- いわき市 地域医療情報システム統計より引用
- ✓ 保育所待機児童数はゼロ
- ✓ いわき市総生産(GDP)に占める割合
  - 第一次産業0.7% : 農林水産業の割合の少なさ!
  - 第二次産業34.1% : 比較的工業のまちながらも、例えば三重県四日市は倍以上の規模
  - 第三次産業64.1% : 観光産業のコロナ後立て直しは順調も、総額で同規模地方都市比脆弱

### 【統計が教えてくれるもの(教訓的仮説?)】

- ✓ 核となる「産業」が十分に育っていない?
- ✓ お金が使われない社会 : 車で郊外へ、家と郊外の点と点の移動。街が空洞化、運転する為飲酒不可  
: 医師不足で医療が充実とは言えない。介護職員数も全国平均以下であり、  
安心感のある暮らしを長くエンジョイできず?
- ✓ お金が増えない社会 : 産業が伸びない、まちが発展しない、希望が持てない? ➡投資も集まらない
- ✓ 危機感なく衰退を見届けるがごとく。。。

《資料編》P.27~ご参照

座談会参加者が同窓会からの事前配布資料を読み、座談会当日出された意見をまとめたもの。

統計上表面に見えているところでは、市の現状にポジティブな印象(=伸びている印象)は持てませんでした。

## われらの街いわき（雑感）

### 【地勢的特徴】

- ✓ 雪が降らず、一年中温暖な気候
- ✓ 広く自然豊かな土地
- ✓ おいしい山海の産物
- ✓ 太平洋に面する漁港のまち
- ✓ 合併市らしく市街地が複数分散
- ✓ 新幹線はないが、東京から車でも特急でも2時間圏内

### 【文化的特徴】

- ✓ 教育熱心
  - ◎ 難関大学への高い進学意欲
  - ◎ 高校野球、サッカー、ラグビーで何度も全国へ
  - ◎ 吹奏楽、合唱コンクールでも何度も全国へ
- ✓ 戊辰戦争と平城落城、合併市ならではの難しさ
  - ➡ ほとんど地元では語られず
  - ➡ 自慢できる、核となるアイデンティティなし
  - ➡ 市内地域間でライバル意識、まとまらず

### 【生活雑感&イメージ】

- ✓ さびしいいわき駅前（極端に少ない人通り）。車社会でどこへ行くにも車、街から郊外へ人の流れが分散
- ✓ 常磐線も磐越東線も終電が早く、本数も少なく、乗車人数も年々減少
- ✓ 暗い市役所！ LATOV（駅前の基幹商業ビル）もさほど元気なし
- ✓ 呑む、食う、泊まる、いろいろ良いもの、良いところがありそうで、今一つピンと来ず
- ✓ のんびり気質ながら、閉鎖的、保守的な風土

### 【産業的特徴】

- ✓ 炭鉱閉山から50年、かつての賑わいなし
- ✓ 新産業都市（工業のまち）としては発展
- ✓ 企業の工場多数誘致
- ✓ 農林水産をはじめ、地元の伝統産業の振興や保存は課題
- ✓ それでも、米や清酒、ワイナリーなど、気候を活かした産業発展の兆しあり

### 【観光資源】

- ✓ スパリゾート
- ✓ 湯元温泉郷
- ✓ 白水阿弥陀堂
- ✓ いわき七浜
- ✓ 平競輪
- ✓ いわきFC J2で躍動
- ✓ アクアマリン
- ✓ じゃんがら踊り、いわき踊り、フラガール など豊富

上記は座談会参加者のふるさとの雑感をまとめたもの。

強みと課題が浮き彫りになりました。

やはり、教育熱心な町、東北屈指の工業都市、東北とは思えない温暖な気候、山海の幸、観光資源に恵まれた町との印象。一方、他の地方都市と同じく、駅前に活気がなく衰退を感じさせる寂しさあり。

## 6. いわき市の課題認識

### 掲げた理想と直面する課題

駅前空洞化

&

少子化・人口減少

### いわき市が掲げてきた/掲げている理想

かつて : 中核市として人口50万人への成長を目指す！

希望に満ちたゴール

現在 : 少子化・高齢化社会に向き合った住みよく、魅力にあふれる街

諦めの境地？

➡ 明確なビジョンがないのでは？

### 理想と現実とのギャップ

結局、他都市より早く人口が減り続け、都市の空洞化に抗えないジレンマ

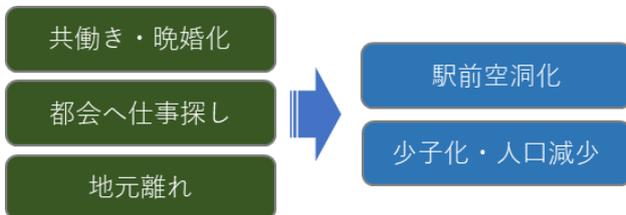
### いわき市の長年の課題

- 石炭産業の斜陽化がもたらした昭和の大合併  
合併から59年経ついまも地域間感情が残り、まちづくりの『具体的ゴール』がまとまらない  
まちの中心『核』がいつまでも形成されない
- 東京志向が他都市よりも強く、若い世代が転出過多 --- 《資料編》若者流出の現実(福島県)参照  
➡ 客観的に「魅力のない街」

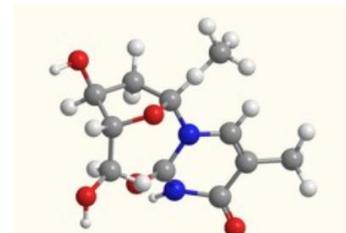
### 課題を生んだ要因

--- まず衰退の根本原因の追究から

#### 【起きてしまった現実の振り返り】



(P.9のAs-Is分析から)



政治・経済・社会の様々な矛盾  
を根本から是正する姿勢が  
求められる！

#### 【まず / 改めてすべきこと】

- なぜ駅前空洞化が起きたのか？
- なぜ駅前空洞化とまちの衰退は密接不可分なのか？
- なぜ少子化が止まらないのか？

➡ 《**因数分解**しよう》このようななぜ？を徹底的に考え、解決

※ 解決法が成功裏に実践され、遂に晩婚化、都会への若者の流出、老いも若きも地元離れと言った現象が克服されるとの仮説が立つまで、論理的思考を繰り返す

## 7. いわき市への提言

### (1) まずはビジョンの策定、明示から(市民の啓発から共感へ)

#### まずは都市のビジョンから

--- 世界の、日本の社会課題への対峙をも念頭に！現実を踏まえたこれからの街のあり方

〔一例〕 例えば

ビジョンと実行力ある『有識者グループ』が

- ✓ 同じ強み・課題を持つ『(外国)都市と組んで』
- ✓ 未来の街を“変える”『企業・研究機関と本気で組んで』

- ◆ 基幹産業振興策
- ◆ インバウンド観光産業振興策
- ◆ スマートシティ化を軸にSDGs/ESG先進都市のイニシアティブ

を強力推進

【明確なビジョンなきままでは、海図なき航海】

- 〔VUCAの時代〕ビジョンやミッションは骨太に大枠を固めた上で
- 細かいTo Doや期待効果は、走りながら考え修正しても良いのでは？
- 何よりも、市民の意識を“脳内革命”を起こす程の覚悟をもって（市の取組に期待！）

### いわきのビジョンは？

- ➡ **どんな街にしたいのか？** --- 5年、10年、20年後のライフスタイルをイメージ  
ビジョン(=今はビジョンが不明確)を掲げましょう※
  - ロードマップを策定
  - ロードマップ上の各種取組事項を定義するアクションプランを策定
  - 国や県の賛同や協力も肝心

#### ※ ビジョン例

- 地の利、風土を活かした産業が創造される街
- Society5.0下のインフラを駆使し社会課題を解決し続ける街
- ➡ 人が集い、街が潤い、文化が涵養される街

#### ☑ 根拠は？

- 課題、悩み多きSDGs/ESG世界における今後の都市のあり方が問われている
- Society5.0の枠組みを活かして、いかに21世紀理想の文化都市に進化させられるか？
- ただし、明らかな成功事例がまだ確立されていない！
- ならば、一番手に名乗りを上げましょう！

《座談会コメント》

市のHPを読むと、いかに時間をかけていわきを活気づけるための施策を検討してこられたかが読み取れ、頭が下がります。

一方、10年後、20年後のゆたかな暮らしをイメージできるような明確なビジョンまでは示されていないように思われます。

つまり、市を良くするための各論は明確に示されていますが、それぞれのミッションの成果を融合し大きなビジョンの実現に至るストーリーがまだ未完成ではないでしょうか？

(2) アクションプラン(案)

**長期視点に立った街の発展・成長のモデルをイメージアップしましょう！**

- **ビジョンなき都市計画はお金の無駄遣い！**  
市民の支持を取りつつ計画を推進！そのためには、  
**「明確なビジョン」と「健全な危機感」**を市民と共有**《発信》**されたい  
これからの街のあり方について「市民の啓発」に注力されたい  
取組の進捗は逐次市民に情報開示することが、今まで以上に肝心
- **間違ったアプローチ**  
過剰な道路建設  
使われない施設建設 --- 人とお金の流れを呼べない地域への施設誘致  
分散都市を助長する商業・スポーツ施設誘致  
等々、、、
- **いわきの取るべきアプローチ(案) --- 世界の課題、日本の課題にも照らし**  
**※ヒト、モノ、カネが集まる都市のあり方を徹底的に考え実践！**  
そのために、**住みたいまち、人があこがれ集まるまちに改造**  
これからの住みたいまち、人があこがれ集まるまちとは、
  - ◆ 基幹産業が振興して
  - ◆ インバウンド観光産業が振興するなど、価値を生み
  - ◆ 社会課題が自律的に解消に向かい、誰もが安心して暮らせるコンパクトなスマートシティではないか？

【ビジョンに基づく、施策の基本コンセプト】 — 地の利、風土を徹底的に活かしたモデル！

旧来の政治・経済

決別するつもりで

本物の地方政治

SOCIETY5.0インフラを活用した『スマートシティ』型社会実現

- ☞ 日本の“社会課題”解決のナビゲーター役( **SDGs** / **ESG** 先駆者)を担い、浜通りといわきの真の復興を！
- 農業施策 → 食糧自給モデル確立: 会社化・担い手支援、サプライチェーン整備で自給率を段階的に●%迄引上
- 林業・水産業施策 → 林業・水産業で稼ぐモデル確立; —  
《土地の7割が森林》スマート林業先駆者としてバイオマス事業展開、  
《暖流と寒流の潮目》常磐もののブランド化推進
- クリーンでエコな都市 → 環境配慮政策牽引; —  
工業部門での低・脱炭素化促進: 代替エネルギー活用、水消費 & 廃棄物削減、クリーン排水等、  
各種CO<sup>2</sup>排出削減策敢行  
廃棄食糧やゴミの削減施策と資源化推進。脱ペット・プラ容器へ、エコバッグ・容器販売・配布や  
量り売りの制度化等
- エネルギー構造改革 → 脱化石燃料・脱原発のシンボル化; —  
太陽光他再エネ利用発電、代替燃料実証研究推進、自家発電・余剰電力融通へのインセンティブ  
制度導入等
- 近未来のコミュニティ — スマートライフ実現に向けた都市機能整備
  - ✓ 『スマートシティ』型社会インフラ整備
  - ✓ 『意識改革』こどもから大人まで、超スマート社会の牽引者に

具体的施策案P.24【別紙】

社会課題の解消と地域活性化へ



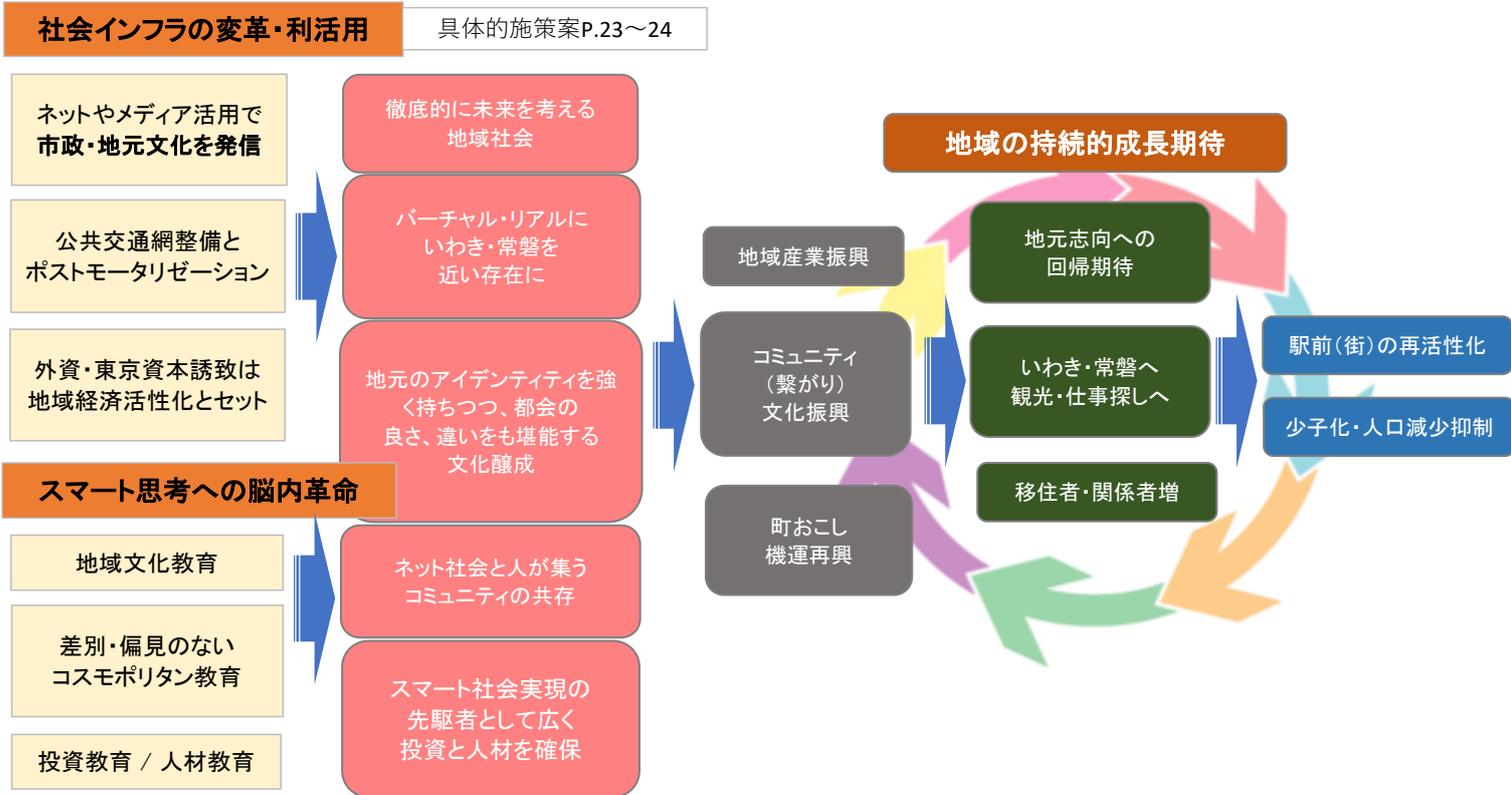
《座談会提言》

旧来の中央政治・経済の方程式に未来の解はない！

旧来の地方自治ではなく、地方政治(= 市の未来像(VISION)を描いて経営)を展開しましょう。

《座談会提言》

本物の地方政治を推し進める中で、『社会インフラの変革・利活用』、『〈市民啓発〉スマート思考への脳内革命』を敢行して行きましょう。



《座談会提言》

P.9 では、今日の地方衰退を招いた原因についての仮説を立てるべく、高度成長期以降の日本を振り返りました。

結論、仮説として、自民党一強の55年体制からの進化を怠った、日本の政治や国民の姿勢が根源と断じました。

この分析のベースを用いて、過去の失敗の構図を反面教師として、上述のような、思考と行動の転換を図ることで、『駅前(街)の再活性化』や、『少子化・人口減少の抑制』が叶うのでは？

このようなシミュレーションをされつつ、市政の大胆なアクションプランが形作られていく事を望みます。

《座談会提言》

まずは、卑近なところから活性化プロジェクトを開始されるのはいかがでしょうか？

いわきの名所旧跡、観光資源、常磐もののブランド価値に大いなるポテンシャルを感じます。

いわきFCがJ1に昇格して、全国から多くのファンがいわきを訪ねる近未来像も描きたいですね。

- 小名浜港の整備
  - ➡ 世界から豪華客船が寄港する観光ハブへ
- いわき七浜アピール
  - ➡ 観光コース化と地元産物の販促をセットで
- ゴルフ場
  - ➡ 1年中ゴルフがエンジョイできる“メッカ”に、世界からトーナメントツアー招致
- 湯本温泉
  - ➡ ハワイアンズだけじゃない湯本をアピール  
外国人観光客の取込
- 旧所・名跡、文化遺産
  - ➡ 勿来の関、阿弥陀堂、炭鉱跡、背戸峨廊、じゃんがら踊り等観光コース化
- 物産 —— 農林水産業に大いに発展余地あり
  - ➡ いわき山海の名産品のブランド化
- スポーツ振興・イベント
  - ➡ 収益の出る定期興行として定着化、いわきFCのJ1昇格推進
- 平(市中心部)のコンパクトなスマートシティ化、市内交通インフラ整備
  - ➡ いわきの点と点を公共交通で繋ぎ、周遊ルート兼生活の足として充実、  
又、平をショッピングと文化交流のハブに！ Society5.0下のテクノロジーを駆使し、  
医療、介護、保育等のサービス(=生活インフラ)を充実させ、安心の暮らしを保証
- 次世代人材育成と新産業振興
  - ➡ “復興のシンボル”として、教育機関の取組と新産業創造を推進、  
社会へアピール(=福島県イノベーションコースト構想の具現化)



スマートライフ実現の為の都市機能整備案は次葉【別紙】参照

### 《座談会提言》

市民が持続的な市の成長を念頭に、自律的に問題意識を整理して、市に働きかける関係性が確立されることを切に望みます。

そのためには、市民が、どのような暮らしを実現したいのかに考えを巡らせ、実現のためには何が足りていないのかを把握することから始める必要があります。では、そのギャップを埋めて行く為の仮説、シナリオがどう成り立つか、論を立てるアクションが続くのが理想です。

日本国中、おそらく殆どの町に、具体的な未来像はないと思われ、いわき版定義も至難の業と思います。多くの課題解決に内製化は困難とも思われ、外国人材も含めて、有能な『産官学コラボ』の枠組み作りが期待されます。

まずは、下記のように大胆に変革をイメージされ、ロードマップにされることを期待します。

何より、市民と一体で考える命題であり、継続的議論と、啓発の為の発信が肝要と思料します。

#### ➤ 近未来のコミュニティ —— スマートライフ実現に向けた都市機能整備

【別紙】

##### ✓ 『スマートシティ』型社会インフラ整備

###### ✿ エネルギー自給

➡ **自給率ベンチマーキング**: エネルギー構造改革と共に、ベンチマークを設定し段階的に自給率を●%まで引上げ

###### ✿ 公共交通網充実

➡ **ポストモータリゼーションモデル確立**: —

鉄道&(トラム・)バス公共交通整備 —— 点と点を結ぶ網の目交通網へ。再エネ活用と自動運転導入

###### ✿ テクノロジー活用

➡ **IoT、ICT、AI、ロボット技術を暮らしに**: —

公共交通の自動運転と安全監視、行政・民生サービス、医療、介護、保育、教育、防災等全方位のサービスで活用

###### ✿ 人にやさしい街

➡ **暮らしに安心の生活インフラ整備**: —

待機児童ゼロへ保育施設整備&保育ロボ導入 / 医療機関整備&バーチャル医療サービス提供(個人健康プロフィールや検診データのビッグデータ化、オンライン診断・処方等) / 介護ヘルパー業務のロボ代替と高齢者入居施設誘致 / 街のバリアフリー化 / 高齢者や国内外からの移住者が活躍する場の開放・創出、その為の各種ベネフィット・インセンティブ提供 / 防災にもAIで早期避難指示、被災者支援インフラ整備(公共施設の簡易避難所指定と官からの訓練・物資提供、食料・物資配給(ドローン活用))

###### ✿ 人と人との繋がり

➡ **リアル・バーチャルコネクト**: —

コミュニティ&地域間公共交通による移動利便性確保。市中心部はワンストップで人が集い交流する場へ  
他国・国内他地域には“メディア・オンライン”で観光・生活のバーチャル体験を促進し、リアル体験へ誘導 ⇨ “関係人口”増加への飽くなき努力を

##### ✓ 『意識改革』こどもから大人まで、スマート社会の牽引者に脳内革命

###### ✿ 文化教育

➡ **コスモポリタン思考のすすめ**(地元のアイデンティティ教育と同時に、他国・他地域の文化との違いを感じて楽しむ偏見や差別のない心根の醸成を!); —

いわき・常磐の歴史と伝統、地勢を知る、他所との違いを認識し、良さも堪能する。伝える力(論理的思考、国語・外国語能力といった基礎能力を含む)も涵養

###### ✿ 人材育成・確保

➡ **高度人材の育成・招聘**: 『スマートシティ』型社会をつくる人材(**次世代の市政の担い手**)を養成、国・地域を問わず招聘

➡ **社会奉仕人材の育成・確保**: 介護・保育人材等へのインセンティブを制度化、機械・ロボットとの協働モデルのデザインも推進

###### ✿ ITリテラシー

➡ **SOCIETY5.0テクノロジーの街への導入と生活利用促進**: —

「創る人・教える人」を育て・招聘する、全員が「使いこなす人」になるための学びの機会提供で情報強者と弱者の断絶を排除

###### ✿ 金融リテラシー

➡ **利殖を学び貯蓄から投資へ、社会のお金の循環の仕組みを学び域内GDP成長の課題を可視化**: —

お金を楽しく使って賢く増やし、町にも投資! いわき・常磐の現状(稼げない街)を知り、稼げる街への変貌、産業創生を考え行動する文化醸成

### (3) 住民理解と協力を得るために

#### 《座談会提言》

世界各国、日本全国どの町においても、おらがまちを持続的に発展させて行く上で、地域住民の健全な危機感(意識・心構え)が最も重要なドライバー(要素)であると考えます。

いわき市民はそのような健全な危機感をどの程度持たれているのでしょうか？

人口減少社会と都市の衰退が同時に進行して久しく、今後、抜本的な変革がなされなかった場合、地域住民はどのような結果を予想すべきでしょうか？

反対に、あくまでポジティブな姿勢で、いわき市と市民は●●をすれば状況を良い方向に変えられる、という仮説を立てて、積極的に試行錯誤して正解を見いだして行くのはいかがでしょうか？その過程で、人々の意識改革を促すヒントを市は見いだして、変革に向けて啓蒙・啓発していく事(“脳内革命”)が望まれます。

座談会での意見を踏まえ、本同窓会では、いわき“なり”の超スマート社会への転換モデルを、変革のシナリオ(仮説)として例示させていただきました。

食糧・エネルギーの高自給率を実現する産業振興や、観光・レジャー天国へのプロデュース、「平」をヒト・モノ・カネの集まるハブとして人流を促す公共交通網を整備、更には、デジタル社会の技術を駆使した暮らしやすい生活インフラの実現など、いわき版超スマート社会は、魅力ある未来都市として、日本のみならず、諸外国の都市経営のモデルにもなり得ると考えます。

市の人口減少のペースを緩める突破口になる！と、結論づけられれば当然モデルケースになると考えます。言うまでもなく、都市の成長において最も重要な要素は、着実な人口増加ですので。いわき市は、地元の若者が一世帯あたり2人以上の子どもを持つことを奨励しながら、日本人や外国人など外部の人材をどのように惹きつけることができるでしょうか？

シンクタンクやコンサル、大学等研究機関と言った外部のインテリジェンスの力も借りながら、地の利と地元文化を活かした、あくまでポジティブシナリオに繋がるビジョンを策定していただきたく思います。

#### 【社会課題解決の3要素】

P.11～13 で触れた通り、

『社会』  
『経済』 } の3要素において山積：解決にはスマート社会への転換がもたれる  
『環境』

大国の覇権争い激化もあり、SDGs / ESG のイニチアチブは進みが遅い現状。

それだけに、スマートシティが ➡ 都市の魅力の最大のバロメータとなり、 ➡ 投資と人口増加につながる社会の変化がより期待されるものと整理しています。

#### 【住民理解と協力を得るための3要素】

先述の通り、住民理解と協力なくして変革は起きえません。

(釈迦に説法ながら、)理解と協力を得るためには、まず、

- ✓ 『ビジョン』を示すことから始めるもの考えます。  
健全な危機感を持ってもらいつつ、持続的成長のイメージとゴール、ゴールを目指す戦略などを共有します。

次に、

- ✓ 『プロジェクトの推進体制』(組織、メンバー&責任分担、会議体とその役割、会議議事録公表体制など)を示し、併せて、ロードマップ、スケジュール&マイルストーンを説明、理解を得ながら制定して行くことが求められます。

一方、何より大事なのが、

- ✓ 『長期的なメリット』(=ビジョンの実現で得られる長期的便益)を、変革へのストーリーとしてある程度具体性をもって説明(得るものと捨てるもの/変わる事と変わらない事)し、納得を得ながら、上記の2要素を理解して行ってもらおうことと考えます。

以上

## 8. 《資料編》

## いわきのアイデンティティ

### 市章

いわき市の頭文字「い」を図案化したもので、**本市の発展と融和団結、円満、平和を表徴。**  
(昭和42年10月1日制定)



### シンボルマーク

いわき市の「い」と、**未来に向けて「ひとまち自然」が輝く姿を太陽でエネルギーにデザイン。**  
躍動的な「い」は人の姿も意味しており、**活力と熱意にあふれる市民の行動をシンボライズ。**  
(平成4年11月10日制定)



IWAKI CITY



いわき市

出所:いわき市HPより引用

## われらの街いわき①



われらの街いわき②



われらの街いわき③



われらの街いわき④



われらの街いわき⑤



## いわき市 各種統計①

統計から、いわき市の人口減少のペース  
(4ヵ年平均増減率)は△2.446%、  
中核市の中では下位 (自治体四季報による)

| いわき駅         |       | 1日平均乗車人員推移 |       |
|--------------|-------|------------|-------|
| 年度           | 定期外   | 定期         | 合計    |
| 2000年(平成12年) |       |            | 8,035 |
| 2001年(平成13年) |       |            | 7,960 |
| 2002年(平成14年) |       |            | 7,919 |
| 2003年(平成15年) |       |            | 7,541 |
| 2004年(平成16年) |       |            | 7,246 |
| 2005年(平成17年) |       |            | 7,031 |
| 2006年(平成18年) |       |            | 6,828 |
| 2007年(平成19年) |       |            | 6,650 |
| 2008年(平成20年) |       |            | 6,487 |
| 2009年(平成21年) |       |            | 6,268 |
| 2010年(平成22年) |       |            | 6,004 |
| 2011年(平成23年) |       |            | 4,175 |
| 2012年(平成24年) | 2,492 | 3,503      | 5,996 |
| 2013年(平成25年) | 2,504 | 3,632      | 6,136 |
| 2014年(平成26年) | 2,494 | 3,415      | 5,910 |
| 2015年(平成27年) | 2,600 | 3,541      | 6,142 |
| 2016年(平成28年) | 2,555 | 3,536      | 6,092 |
| 2017年(平成29年) | 2,533 | 3,495      | 6,028 |
| 2018年(平成30年) | 2,459 | 3,412      | 5,872 |
| 2019年(令和元年)  | 2,339 | 3,351      | 5,690 |
| 2020年(令和2年)  | 1,271 | 2,979      | 4,251 |
| 2021年(令和3年)  | 1,344 | 2,852      | 4,197 |
| 2022年(令和4年)  | 1,796 | 2,866      | 4,662 |
| 2023年(令和5年)  | 2,066 | 2,933      | 4,999 |

## いわき市の1日



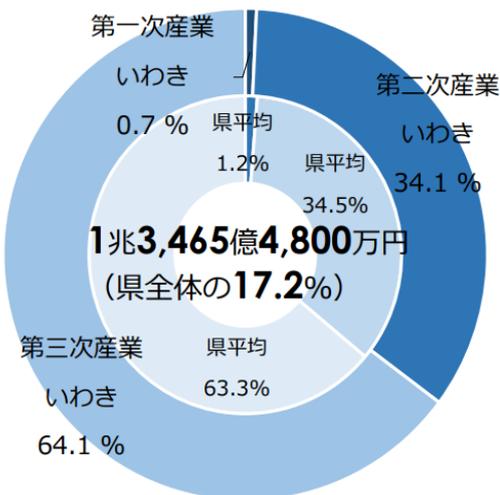
上記出所:いわき市HP いわき市統計書(R6年版)より引用  
(注)鉄道乗車人員は、常磐線いわき、内郷、湯本、泉、植田、勿来、四ツ倉のみの合計

左記出所:wikiベディア いわき駅の1日乗車人数推移

## いわき市 各種統計②

統計値等出所:いわき市地方振興局資料より抜粋

### ◆市町村内総生産 (R3)



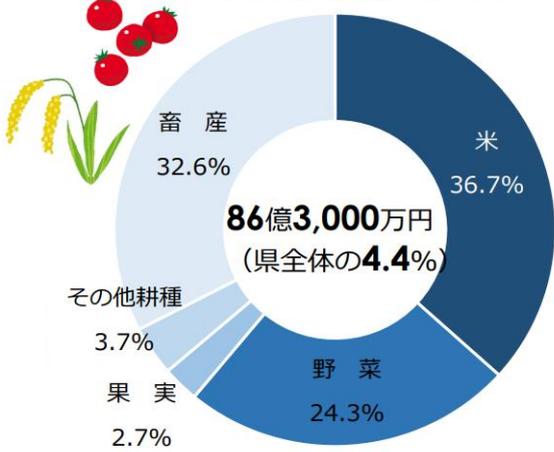
※県統計課「令和3(2021)年度福島県市町村民経済計算年報」より作成

第一次産業: 農業・林業・漁業  
 第二次産業: 鉱業・建設業・製造業  
 第三次産業: 電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、卸売・小売業、金融・保険業、不動産業、学術研究・専門・技術サービス業、飲食店・宿泊業、生活関連サービス業・娯楽業、教育・学習支援業、医療・福祉、総合サービス業、サービス業(他に分類されないもの)、公務(他に分類されるものを除く)

Memo

### いわき市 各種統計③

#### ◆ 農業 - 農業産出額 (R4) -



※農林水産省「令和4年市町村別農業産出額(推計)」より作成

米は、いわき産コシヒカリを「Iwaki Laiki」(いわきライキ)のブランドで販売。  
温暖かつ長い日照時間をいかしたトマト・いちご等の施設園芸や日本なし栽培が盛ん。

統計値等出所：いわき市地方振興局資料より抜粋

#### ◆ 林業 - 林業生産額 (R2) -

15億8,900万円 (県全体の23.2%)

生しいたけは県内生産量の40% (第1位)

【主要林産物生産実績 (R3,R4)】

| 林産物                       | 年区分 | 生産量   | 対県構成比 |
|---------------------------|-----|-------|-------|
| 素材 (千m <sup>3</sup> )     | R3  | 168   | 17.6% |
| 製材品生産量 (千m <sup>3</sup> ) | R3  | 144   | 35.0% |
| 木炭 (kg)                   | R4  | 3,050 | 4.9%  |
| 生しいたけ (t)                 | R4  | 1,349 | 40.3% |
| なめこ (t)                   | R4  | 325   | 18.8% |

※県農林水産部「令和5年 福島県森林・林業統計書(令和4年度)」より作成

#### ◆ 水産業 - 漁業生産量 (R5) -

約7,447トン (県全体の59.5%)

※県水産課「福島県海面漁業漁獲高統計(令和5年版)」より

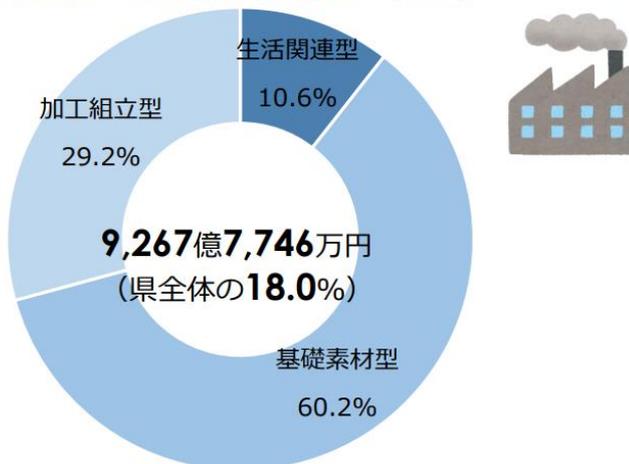
魚種別にみると「いわし類、さば類、かつお・まぐろ類」が大きな割合を占める。

海産魚介類の放射性物質はほとんど不検出。試験操業は令和3年3月31日で終了。

⇒令和3年4月からは本格操業に向けた移行期間として、計画的な生産拡大を推進中!

### いわき市 各種統計④

#### ◆ 工業 - 製造品出荷額 (R3) -



※県統計課「令和3年福島県の工業【2022年経済構造実態調査(製造事業所調査)福島県版集計】」より作成

製造品出荷額は東北2位の工業都市!  
港湾機能をいかした化学工業等の基礎素材型産業が盛ん。

生活関連型：(産業中分類) 食料、飲料、繊維、家具、印刷、皮革、その他

基礎素材型：(産業中分類) 木材、紙、化学、石油、プラスチック、ゴム、窯業、鉄鋼、非鉄、金属

加工組立型：(産業中分類) はん用機材、生産機械、業務用機械、電子・電気・情報機械器具、輸送

統計値等出所：いわき市地方振興局資料より抜粋

Memo

## いわき市 各種統計⑤

統計値等出所：いわき市地方振興局資料より抜粋

### ◆ 商業 - 年間商品販売額 (R3) -

**8,494億円** (県全体の**18.3%**)  
卸売業：4,415億円  
小売業：4,079億円

※県統計課「令和3年経済センサス-活動調査(卸売業、小売業)結果報告書」より

中でも卸売業販売額では繊維・衣服等卸売業の割合(7.1%)が県全体のその割合(1.7%)の倍以上と特徴的。

### ◆ 観光 - 観光客入込数 (R5)

**6,869,015人**

※R4: 5,462,975人

R5年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行により観光需要が回復し、大型イベントの全面開催等人流拡大により増加となったが、依然として震災前の水準には達していない。

【主な観光地別観光客入込数】

| 行楽地           | R4年       |        | R5年       |        |
|---------------|-----------|--------|-----------|--------|
|               | 入込数(人)    | 入込数(人) | 入込数(人)    | 入込数(人) |
| アクアマリンふくしま    | 545,387   |        | 604,851   |        |
| いわき・ら・ら・ミュウ   | 1,254,400 |        | 1,375,300 |        |
| 夏井川溪谷         | 34,584    |        | 40,818    |        |
| 新舞子海岸         | 162,616   |        | 204,412   |        |
| スポーツ・レクリエーション |           |        |           |        |
| スパリゾートハワイアンズ  | 948,159   |        | 1,265,520 |        |
| ゴルフ場          | 531,407   |        | 533,873   |        |
| 温泉            |           |        |           |        |
| いわき湯本         | 203,258   |        | 212,353   |        |
| 海水浴           |           |        |           |        |
| 勿来・小浜         | 8,898     |        | 9,658     |        |
| 四倉            | 16,142    |        | 14,120    |        |
| 行事            |           |        |           |        |
| 夏祭り           | 213,500   |        | 363,500   |        |

※いわき市観光振興課「令和5年市内観光入込客数」より作成

Memo

## いわき市 経済統計

産業別市内総生産比較：いわき vs 郡山、水戸、四日市

(単位：100万円)

| 市町村名 | 市町村内総生産   | 第1次産業  |       |       |       | 第2次産業     |       |           |                 | 第3次産業     |        |            |         |        |        |                   |         |         |           | 輸入品に課される税・関税等 |          |        |        |
|------|-----------|--------|-------|-------|-------|-----------|-------|-----------|-----------------|-----------|--------|------------|---------|--------|--------|-------------------|---------|---------|-----------|---------------|----------|--------|--------|
|      |           | 農林水産業  | 農業    | 林業    | 水産業   | 鉱業        | 製造業   | 建設業       | 電気・ガス・水道・廃棄物処理業 | 卸売・小売業    | 運輸・郵便業 | 宿泊・飲食サービス業 | 情報通信業   | 金融・保険業 | 不動産業   | 専門・科学技術、業務支援サービス業 | 公務      | 教育      | 保健衛生・社会事業 |               | その他のサービス |        |        |
| いわき市 | 1,381,553 | 10,699 | 4,545 | 1,939 | 4,216 | 478,773   | 2,340 | 384,574   | 91,859          | 881,115   | 48,189 | 148,985    | 62,524  | 26,407 | 27,766 | 38,918            | 147,910 | 93,958  | 66,229    | 43,926        | 128,289  | 48,013 | 10,966 |
| 郡山市  | 1,406,688 | 8,087  | 7,232 | 752   | 104   | 304,210   | 1,122 | 227,269   | 75,819          | 1,083,225 | 36,846 | 223,502    | 57,956  | 25,295 | 38,331 | 65,769            | 163,472 | 170,832 | 54,721    | 48,427        | 147,876  | 50,199 | 11,166 |
| 水戸市  | 1,382,743 | 6,118  | 5,999 | 48    | 71    | 158,313   | 60    | 71,359    | 86,895          | 1,204,144 | 26,043 | 213,014    | 47,485  | 26,443 | 92,399 | 99,973            | 116,370 | 209,389 | 98,974    | 60,065        | 147,032  | 66,957 | 36,359 |
| 四日市市 | 2,093,145 | 3,158  | 2,157 | 210   | 792   | 1,105,611 | 2,067 | 1,010,893 | 92,650          | 968,228   | 37,955 | 141,361    | 128,774 | 18,977 | 27,401 | 52,768            | 158,208 | 96,823  | 69,616    | 52,768        | 118,124  | 65,452 | 16,148 |

比較優位ながら、100億円程度の規模

流通・卸売、金融ソフト産業が脆弱

工業のまち、でも四日市の半分以下

※ 四日市市の分野別計数は同地域内の分野別占有割合から推計

統計値等出所：各県HP統計資料より引用

街の人出と消費の関係性

まちの活性化を測る歩行者量調査のガイドライン

歩行者量(通行量)と小売業売上高との関係を検証するため、国土交通省において、既存の統計データを活用し、相関分析を行いました。各都市におけるこれらの関係をみると、歩行者量(通行量)と床面積当たりの売上高の相関が認められます(図2-5)。 出所：国交省資料

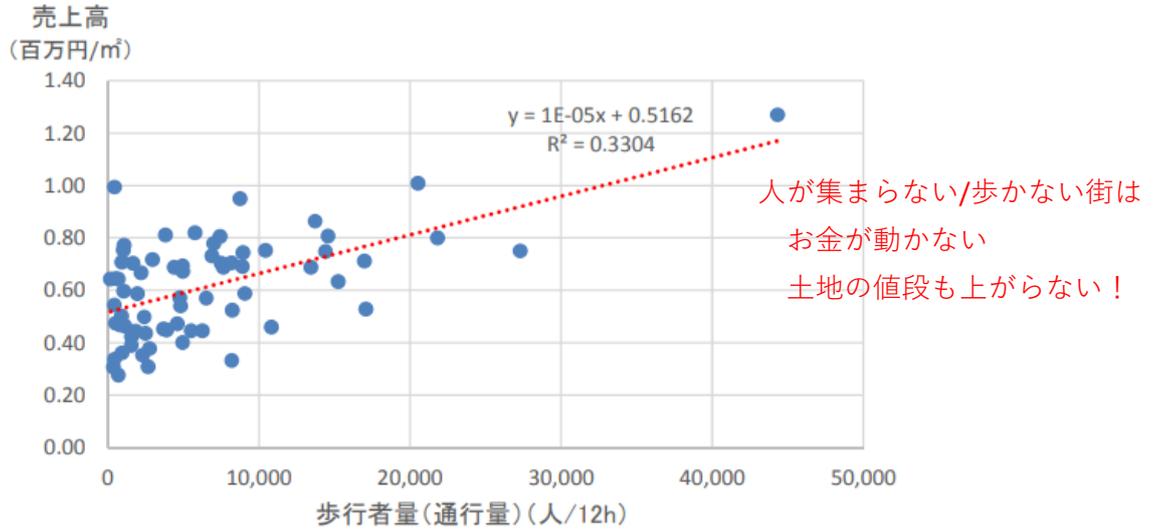


図2-5 各都市の中心市街地の歩行者量(通行量)と小売業売上高

商業地の歩行量と地価の連関

このように、同じ都市の商業地においては、歩行者量(通行量・密度)が多い地点ほど、沿道の地価が高い傾向があるといえます。

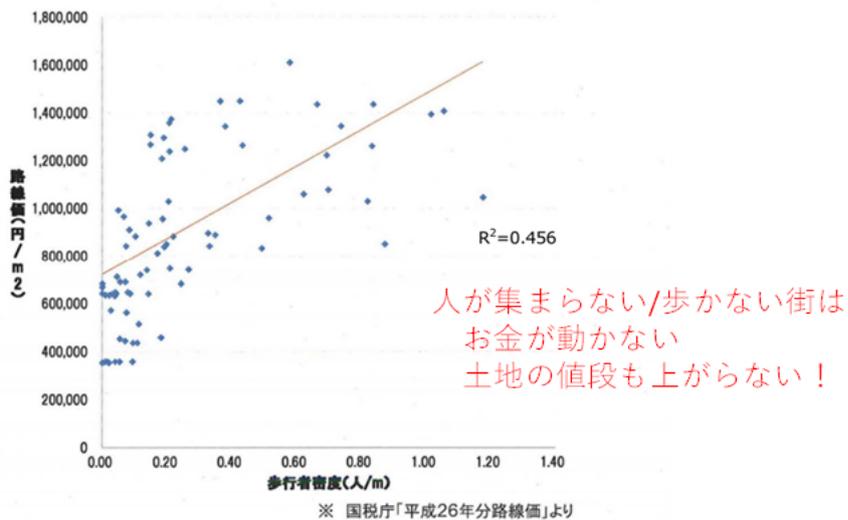


図2-6 歩行者密度と路線価

(注) 歩行者密度は、対象区間の歩行者数を区間距離で除して算出  
出典) 平成27年度 都心部実態調査報告書(広島県・広島市)

出所：国交省資料

## モータリゼーションとアフターコロナ

### モータリゼーションの発達で起きた変化

今後はどうなるモータリゼーション/アフターコロナの働き方  
 若者にとって、車がステータスから高コストのぜいたく品に！  
 今後ガソリン・ディーゼルから、EV or ハイブリッド、それとも水素？

テレワークの定着、ネット完結型社会

車を使う頻度が下がり、高コスト化 ⇒ できれば持たないで済ませたい



社会インフラの高度化 (Society5.0)

地球温暖化・環境対策 ⇔ 地政学リスク

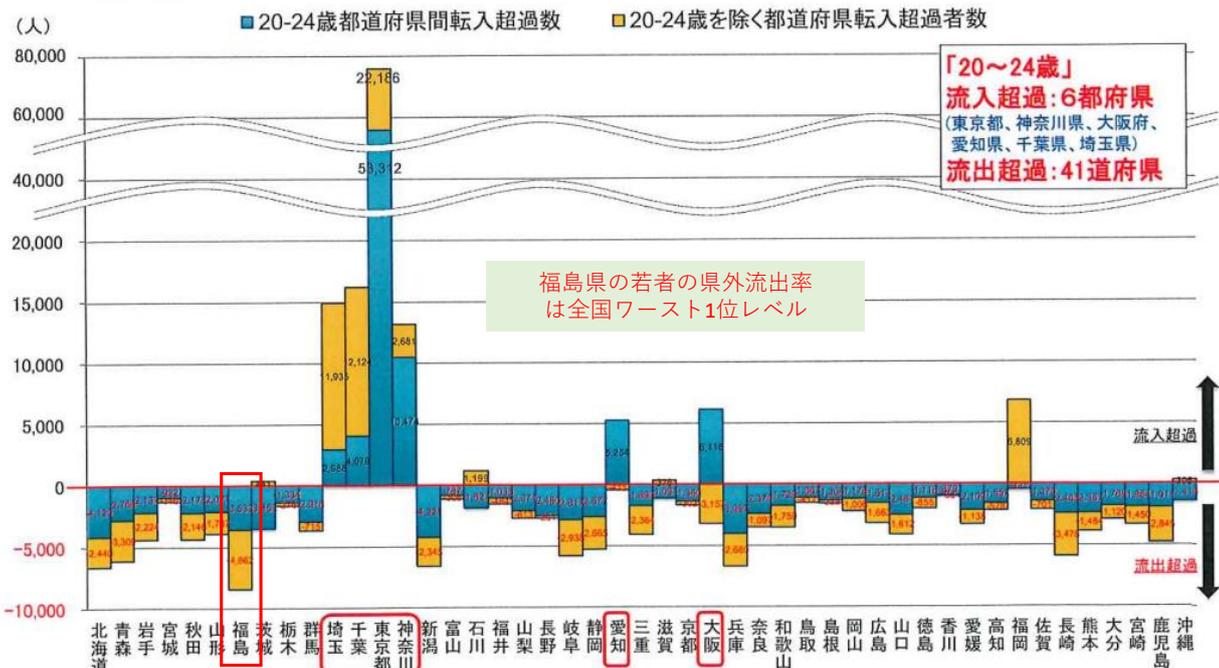
最終的にはSDGs/ESG推進社会へ

新しいライフスタイル、スマートライフを追求

統計値等出所：2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（文科省答申）より抜粋

### 「20～24歳」における都道府県間人口移動（※外国人移動者を含まない）

○ 就職や進学等を機に41道府県の若者が県外に流出（平成29年）



(注) 数値には外国人移動者を含まない。

総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」(2017年)より作成

統計値等出所：2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（文科省答申）より抜粋（下記は2016年度データ）

## 福島県

### ● 地域産業に関する基礎データ

|                 |   |           |   |
|-----------------|---|-----------|---|
| 県庁所在地           | 福島市   | 企業数       | 卸売、小売(7,119)<br>建設(5,843)<br>製造(3,864)          |
| 人口              | 1,914,039   | 従業員数      | 製造(166,493)<br>卸売、小売(154,924)<br>医療、福祉(107,367) |
| 有効求人倍率          | 保安(6.92)<br>サービス(2.48)<br>建設・採掘(2.39)             | 売上高(億円)   | 製造(43,958)<br>卸売、小売(38,079)<br>医療、福祉(7,857)     |
| 一人当たり雇業者所得(百万円) | 電気・ガス・水道(30.61)<br>公務(13.53)<br>化学(8.27)          | 付加価値額(億円) | サービス(13,433)<br>公務(7,593)<br>不動産(7,582)         |
| 労働生産性(千円/人)     | 電気・ガス・熱供給・水道(10,802)<br>金融、保険(6,472)<br>漁業(4,612) |           |   |



### ● 高等教育に関する基礎データ

|                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 18歳人口【H28】       | 19,427          |
| 高校等卒業者数【H28】     | 17,387          |
| 大学進学率【H28】       | 7.668           |
| 大学進学率【H28】       | 39.5%           |
| 大学進学率(国公私別)【H28】 | 7.8% 2.2% 29.5% |
| 短大進学率【H28】       | 4.5%            |
| 専門学校進学率(現役)【H28】 | 18.5%           |
| 大学数【H28】         | 8               |
| 大学数(国公私別)【H28】   | 1 2 5           |
| 入学定員【H28】        | 3,389           |
| 入学定員(国公私別)【H28】  | 945 454 1,990   |
| 大学入学者数【H28】      | 3,253           |
| 県外から流入【H28】      | 1,802           |
| 県内から流出【H28】      | 6,217           |
| 流出入差(流入-流出)【H28】 | -4,415          |
| 自県進学率【H28】       | 18.9%           |
| 大学進学率推計【H45】     | 5,381           |
| 大学入学者数推計【H45】    | 2,450           |
| 入学定員充足率推計【H45】   | 72.3%           |

### ● 大学学部に関する基礎データ

|                       |   |       |       |
|-----------------------|---|-------|-------|
| 【国】福島大学(定員合計:945)     |   |       |       |
| 人文社会学群                | ● | 765   | 福島市   |
| 理工学群                  | ● | 180   | 福島市   |
| 【公】会津大学(定員合計:240)     |   |       |       |
| コンピュータ理工学部            | ▲ | 240   | 会津若松市 |
| 【公】福島県立医科大学(定員合計:214) |   |       |       |
| 医学部                   | ▲ | 130   | 福島市   |
| 看護学部                  | ▲ | 84    | 福島市   |
| 【私】いわき明星大学(定員合計:290)  |   |       |       |
| 教養学部                  | ★ | 200   | いわき市  |
| 薬学部                   | ★ | 90    | いわき市  |
| 【私】奥羽大学(定員合計:240)     |   |       |       |
| 歯学部                   | ★ | 100   | 郡山市   |
| 薬学部                   | ★ | 140   | 郡山市   |
| 【私】郡山女子大学(定員合計:120)   |   |       |       |
| 家政学部                  | ★ | 120   | 郡山市   |
| 【私】東日本国際大学(定員合計:200)  |   |       |       |
| 経済経営学部                | ★ | 120   | いわき市  |
| 健康福祉学部                | ★ | 80    | いわき市  |
| 【私】福島学院大学(定員合計:110)   |   |       |       |
| 福祉学部                  | ★ | 110   | 福島市   |
| 【私】日本大学(定員合計:14,760)  |   |       |       |
| 工学部                   | ★ | 1,030 | 郡山市   |

恐るべき学生の県外流出率 今日においても同傾向継続

### ● 県内高卒者の大学進学先【H28】



### ● 県内大学入学者の出身高校所在地【H28】



## コンパクトなスマートシティ実現への提言

--- Society5.0インフラの活用

## 経済発展と社会的課題の解決の両立

イノベーションで創出される**新たな価値**により、格差なくニーズに対応したモノやサービスを提供することで、**経済発展**と**社会的課題を解決**を両立



予防検診・ロボット介護

健康寿命延伸・社会コストの抑制



Society 5.0



エネルギーの多様化・地産地消

安定的確保、温室効果ガス排出削減



農作業の自動化・最適な配送

食料の増産・ロスの削減



最適なバリューチェーン・自動生産

持続可能な産業化の推進・人手不足解消

## コンパクトなスマートシティ実現への提言

VISION (哲学的ポリシー) の策定から →



ストラスブール市の街中

日本のどこよりも先に！  
**Smart Lifeをコンパクトに実践するスマートシティ化**する構想

- ✓食糧自給率改善モデル (いわきの土地の最大利用とIoT活用による生産性極大化と従事者のハードル下げ)
- ✓ゼロウェイスト (フードロスゼロ、ゴミ縮小と資源化など)
- ✓脱自動車社会 → CO<sup>2</sup>低排出
- ✓街にヒト・モノ・カネが適度に集まりお金が動く社会
- ✓地元の歴史文化を知り、未来に活かす教育、他所の良さを堪能し融合するマインド醸成
- ✓高齢者・子育て家庭に安心の社会インフラ構築 など



徳島県上勝町

## コンパクトなスマートシティ実現への提言

--- 既存都市インフラ保全事例

高知県と沿線4自治体、「とさでん交通」に12億円支援へ



高知市中心部

- ✓ トラムやそれに準ずる交通システムを、市民の足としての大事なインフラと位置づけ
- ✓ 将来的に街中への車の流入量を減らし脱炭素社会への脱皮を模索
- ✓ 仏ストラスブール (上記参照) は、自動車社会が台頭する中、一度トラムを廃止した過去あり
- ✓ 復活においては市内から人がいなくなるのでは？との反対意見多数ありながら、結果はむしろ文化都市として発展し、市中に活気が戻った経緯

## コンパクトなスマートシティ実現への提言

### ✖ 失敗の構図

《人口分散》《脆弱な公共交通》

遠いところに街や施設や観光名所が点在  
“とりあえず”道路で繋ぎ、公共交通の整備は後回し  
実質自家用車での移動が唯一手段

- ➡ 家と目的地の2点間移動
- ➡ (観光客は)出発地と目的地との2点間移動

### Unsmart Life

典型的な現代の地方都市！  
いわきも残念ながら。。。。

✔ 成功のモデル(一案)--- 未来のライフスタイルをストーリーに！

【コンパクトスマートシティ:人が集い金を使うコミュニティへ】

学び、遊び、働き、食べて飲んでをワンストップで  
= 金を使う行動動線をプロデュース  
➡ 同じ場所で長く過ごして、あれもこれもエンジョイ  
(帰りは夜半まで安心の鉄道、トラム、コミュニティバス)

### Smart Life

が世界をどう変えるのか！  
までストーリーを徹底的に  
考える！

【コンパクトに全部楽しめる観光地化】

- ➡ 観光客・地元への動線提供とエコ移動手段確保
- ➡ マルチリンガルタウン化で、世界への発信力強化

国、県、市、人  
+ 産業 & 研究機関  
すべての関係者を  
ステークホルダー/応援団  
に！

【豊かな自然、地の利を生かした第一次産業振興】

- ➡ Society5.0社会で徹底合理化  
物流も整えて「産業」化しつつ、市内食糧自給率を最大限アップ

## コンパクトなスマートシティ実現への提言

まずはVISION (哲学的ポリシー) の策定から

- ✓ Consume
- ✓ Prompt
- ✓ Promote
- ✓ Educate
- ✓ Nurture
- ✓ Learn



- Less resource & energy
- **Recycling** to reduce wastes
- **DX** (IoT & Technologies) to help with above
- **History & philosophy** to help learn ethical values (Dharma) for the good of future society
- Awareness of **local culture & values** (& make youngsters think based on them & above for co-prosperity)
- To stay **humble & neutral** (“A contented mind is a perpetual feast”), and have sympathy & empathy

日本のどこよりも先に！

**いわきでSmart Lifeを実践する**

**スマートシティ化**する構想

地区・地域別の役割の明確化と則った戦略・施策を！

ポリシーモデル出所：インド経営大学院バンガロール校みずほ日印スタディセンター発刊の著書  
“Discovery of Japan”よりこれからのライフスタイルポリシー案引用

## コンパクトスマートシティ実現への提言

(仮説) Smart Lifeが

- ✓ 環境を良くし、
- ✓ 多様性を活かす社会を創造する。
- ✓ それが、世界の共存・共栄をもたらす！

